

精華町の環境 2016 (概要) 発行：平成30年3月 精華町 環境推進課

目標像1 「人・社会」が自然の恵みに感謝し、 未来を育むまち～環境“幸”都～

自然の恵みに感謝し、地域に関わるすべての人が地域の環境を守り、未来を大きく育むまちをめざします。

主な取り組み紹介

パートナーシップによる取り組みの推進

●役場入口に精華環境プラットホームの棚を設置
精華町役場南側入口に、精華環境プラットホームの参加団体等で自由に活用することができる棚を設置しました。各団体からのお知らせ等を自由に配架いただくことで、住民の方に広く活動内容をお知らせすることができるようになりました。



環境学習の推進

●環境日記を作成
新たに、全国統一のパンフレットに追加して、本町の環境の取り組みを記載した環境日記精華町版を作成。町内の小学1年生から6年生を対象に503人の方に取り組みいただき、全国コンクールにおいて、団体の部で金賞1校、個人の部で銀賞1名、佳作11名、若葉賞3名が受賞されました。



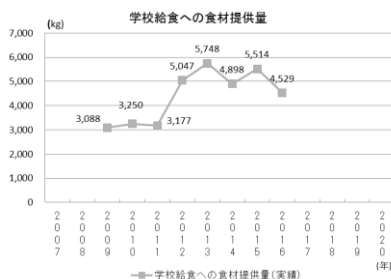
目標像2 「里山・田畑・歴史文化」を守り、 継承するまち～環境“恒”都～

地域に関わるすべての人が里地里山とそこに息づく歴史文化を守り、伝え、継承するまちをめざします。

主な取り組み紹介

学校給食への地元産野菜の提供

●新鮮で安全安心な農産物を子どもたちに提供できるよう、学校給食へ地元産野菜の納入を促進しています。



環境美化活動の推進

●『ポイ捨て』『ふん放置』『落書き』を禁止する「精華町まちをきれいにする条例」について、街頭啓発や広報誌・ポスター等による啓発活動を進め、町内5カ所で定点観測を実施しました。また、放置された場所に、チョークで、日時等の表示を始め、抑止力の向上に努めました。



美しい景観の充実

●きれいなまちづくりとして、町と各自治会長で構成する「精華町きれいなまちづくり運動推進協議会」で、花いっぱい運動や環境美化清掃活動を実施しました。

安全・安心な環境の確保

●町内河川の水質調査や学研地区進出企業への環境保全計画書の審査や立入調査などを実施しました。

目標像3 「資源・エネルギー」が健やかに巡るまち ～環境“康”都～

地域に関わるすべての人が資源とエネルギーを大切にし、資源とエネルギーを有効に利用するまちをめざします。

主な取り組み紹介

ごみ減量・リサイクルの取り組み

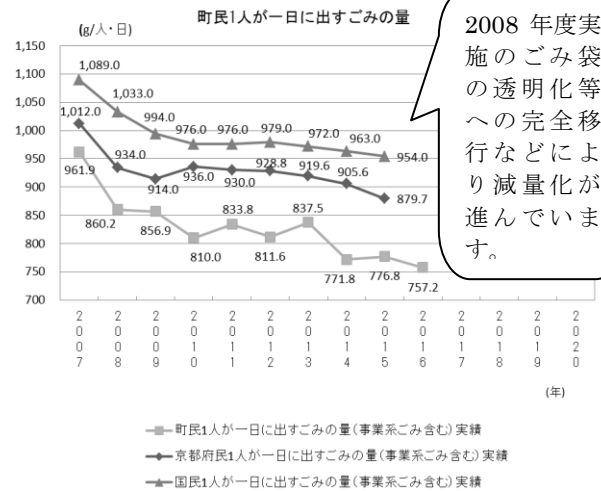
●一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の改訂
今後のごみ処理における目標や施策展開における指針、そして地域住民・事業所等と協力し環境負荷が少ない循環型社会の構築を図っていくために精華町一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の見直しを実施しました。

太陽光発電と蓄電設備の同時設置に対する補助

●住宅におけるエネルギー供給の自立化の促進
住宅用太陽光発電設備及び住宅用蓄電設備の同時設置者に対する補助を実施。京都府との連携による普及啓発に努めました。



循環型社会の構築



環境に配慮した交通手段の充実

●コミュニティバス（精華くるりんバス）の実証運行を行っています。

目標像4 環境で「生業（なりわい）」を目覚めさせ、 起こすまち～環境“興”都～

地域資源を活用した生業を起こし、また、地域全体で精華町の魅力を発信していくまちをめざします。

主な取り組み紹介

環境と産業及び研究機関の連携

●持続可能性社会の実現に向けた取り組み
京都・けいはんなからスマートシティを共創・発信し、持続可能性社会の実現に貢献するため、京都スマートシティエキスポを開催しています。なかでも、けいはんな学研都市で取り組む、脳科学とICT（情報通信技術）の融合による「『超快適』スマート社会」の創出は、新たな産業の創出に寄与すると考えられています。本町では、ICTを基盤とした産業に関する企業や研究者、住民の方などが多数集い、交流を図るこの京都スマートシティエキスポの運営に参画し、関係諸団体と連携して事業の進展を図りました。

環境と既存産業の融合

●「洛いもコロッケ」を新商品として開発
本町では、京都府立大学との連携協力包括協定により、町の新たな特産物「洛いも」の普及を図っています。秋に収穫した「洛いも」を使った特産品を開発し、地産地消を進めています。

「洛いも」は、夏はかわいいハート形の葉の「緑のカーテン」としても活躍し、環境にも優しい作物です。



精華町地域資源総合管理センター華工房